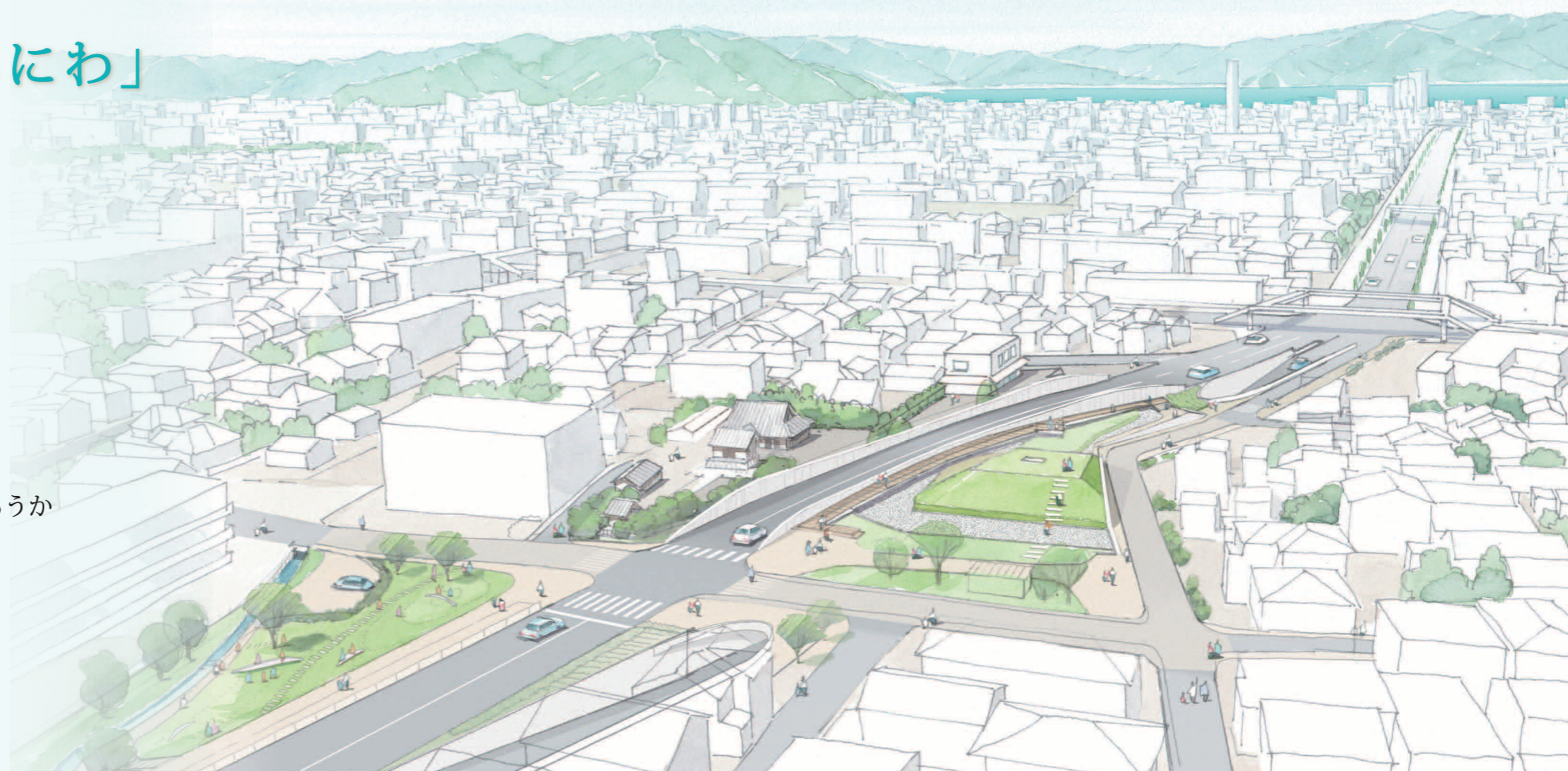


ふるさとの風景をつくる「みちにわ」

地名の由来となった熊野神社、広く信仰を集める高尾山穂見神社
 二つの杜を祀り、長く地域の心の拠りどころであったこの地は
 1800年もの昔もまた、地域の象徴的な場所であった
 これからも地域の大切な場所でありつづけるために
 はるかな時を超え、ふたたび古墳はその姿をあらわしたのではないだろうか
 この土地の意思を汲みとり、
 古墳が織りなす四季折々の日常風景とともに
 地域の暮らしを支え、地域の新たな核となる居場所を目指す



■ 全体構想の考え方 (コンセプト)

- 時を超え、地域の心の拠りどころでありつづける場所づくり
- 古墳のある日常風景で、古墳への愛着が高まる場所づくり
- 暮らしを支える、歩行者優先の街路ネットワーク
- 古墳を保全し、その魅力を引き立たせる橋とトンネル



■ 設計方針

→ ①～⑤の詳細は以降のページを参照

① 道路空間について

- 古墳のある日常風景を演出し、地域の居場所となる『みちにわ』
- 歩行者の安全性を高め、歩いて暮らせる住環境を実現する街路空間
- 周辺の地域資源をつなぎ、地域内の回遊性を高める街路ネットワーク
- 古墳を最大限保存・復元するための幹線道路計画と最先端の土木技術
- ハレの日「東熊堂高尾山神社祭典」の演出

③ 橋梁のデザイン

- 古墳への影響を最小限に抑え、周辺の街並みに溶け込む橋
- 古墳区域に立ち入らない施工方法
- ミニマムメンテナンスと高い耐久性を有する構造
- 古墳のある風景を演出し、回遊性を生み出す空中歩廊

⑤ 古墳と周辺の利活用について

- 古墳の魅力を楽しみながら学べ、周辺の回遊性を創る古墳広場と空中歩廊
- 古墳や谷戸川が日常の風景となる、緑豊かな市有地広場
- 沼津の新たな文化的資産として、地域の誇りを醸成する活動への展開

② トンネルのデザイン

- 古墳を毀損せず、エントランス広場も確保できるトンネル計画
- 古墳保存をより確実にするトンネル施工
- ドライバーに古墳を印象づける坑口デザイン
- 周辺の住環境を向上させる緑化デザイン

④ 古墳の保存・復元について

- 古墳区域内を毀損しない計画
- 前方後方墳の特徴を可視化する復元
- 西側部分の将来的な復元を視野に入れた整備

○ 市民参加など愛着を生むプロセスデザイン

- 安全安心な街路空間に向けた住民ワークショップや社会実験
- 子どもたちによる芝張りや植樹といった市民施工
- 近隣の学校等とのコラボレーションによる学習活動や広報活動

一次提案書

① 道路空間について

■古墳のある日常風景を演出し、地域の居場所となる『みちにわ』

- 古墳整備保護範囲と熊野神社、市有地とそれらに接する市道を、一体的な空間とすることで、地域の新たな核となる居場所『みちにわ』をつくります
- 古墳周辺の4つの拠点と回遊ルートにより、四季折々の古墳のある日常風景を演出し、ふるさとの風景をつくります
- 周辺地域とのつながり、地域住民が利用しやすい街路空間とします

■歩行者の安全性を高め、歩いて暮らせる住環境を実現する街路空間

- 「地区内街路での歩行空間の確保」や「特定の交差点での右折制限」などにより、地域内を通り抜ける車両を減らし、安全で歩くのが楽しくなる歩行者優先の街路空間をつくります
- 小学校・中学校の通学路などを踏まえ最短で移動できる歩行者ルートをつくり、地域内道路を利用する自転車は、一部迂回させるなど歩行者の安全性に配慮したルート設定とします

■周辺の地域資源をつなぎ、地域内の回遊性を高める街路ネットワーク

- 地域の発展や教育に多大な貢献を果たした江原素六氏の資料を展示する沼津市明治史料館、古墳周辺に点在する地域の魅力を活かした店舗などをつなぐ街路ネットワークで、住民も来訪者も楽しめる散策ルートをつくります

■古墳を最大限保存・復元するための幹線道路計画と最先端の土木技術

- 古墳の復元と道路の安全性を両立する幹線道路の平面・縦断線形を設定します
- 当時の最先端の技術を用いて造られた古墳の技術思想を継承し、現代の最先端の技術を用いた橋とトンネルにより、古墳を最大限に保存・復元します

■ハレの日「東熊堂高尾山神社祭典」の演出

- 屋台が立ち並び、多くの人で賑わう地域の代表的なお祭り「東熊堂高尾山神社祭典」を、より魅力的に開催できる広場・街路空間とします

■よりよい環境づくりに向けたプロセスデザイン

- 例えば、幹線道路の設計速度の低減や、地域内の一方通行化など、より安全・安心な道づくりに向けた提案に取り組みます
- 設計段階での住民ワークショップや社会実験、また建設段階での情報発信や市民施工など、地域に愛される「みちにわ」に向けたプロセスデザインにも取り組みます
- トンネルと橋梁の施工時期のズレを利用したトンネルの上下線暫定供用など、地域の道路環境の早期改善に向けた工夫にも取り組みます



地域の居場所となる『みちにわ』

古墳整備保護範囲の園路と、安全性が高まった周辺道路とが一体となり、地域の新たな居場所『みちにわ』をつくります

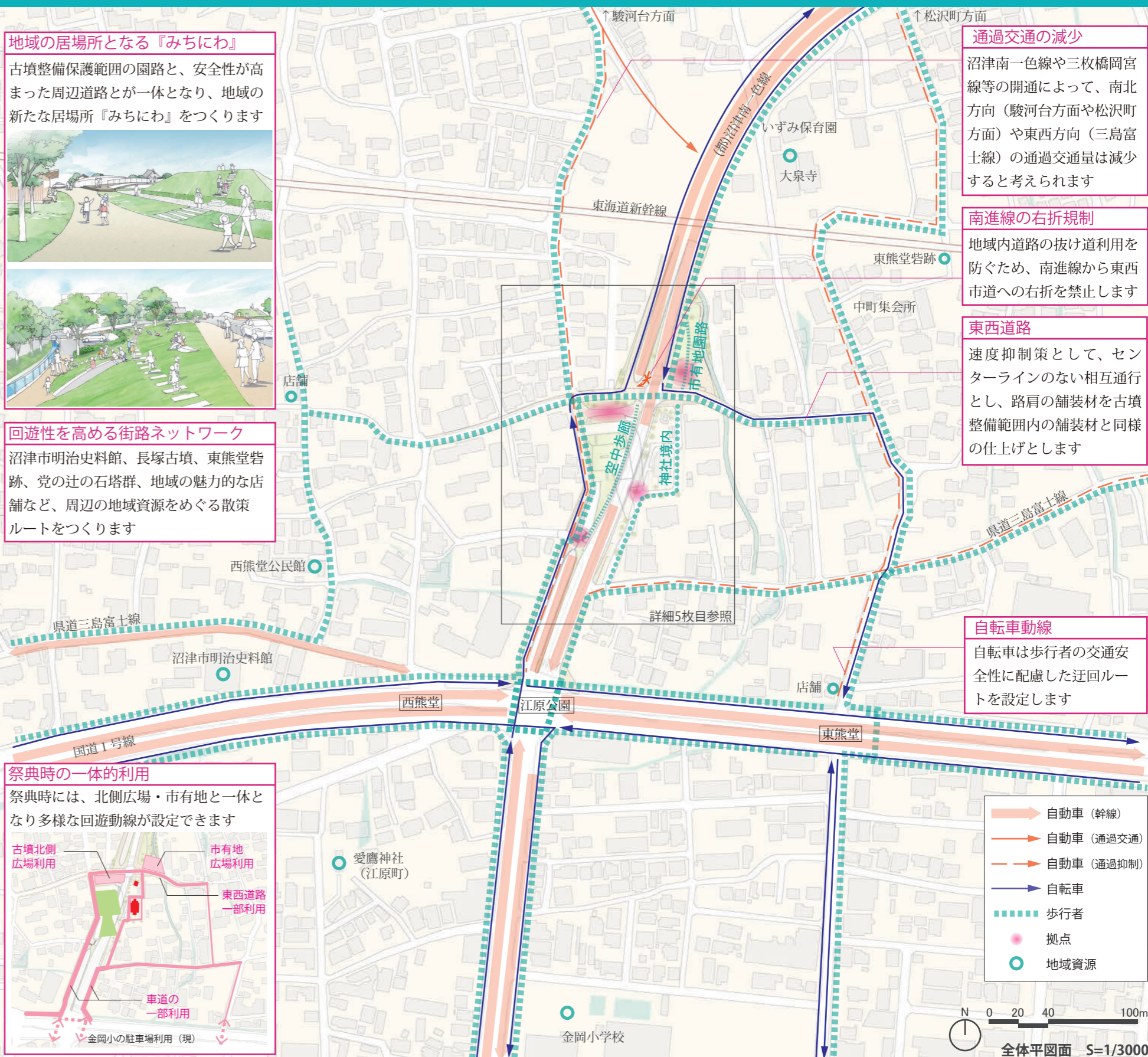


回遊性を高める街路ネットワーク

沼津市明治史料館、長塚古墳、東熊堂砦跡、党の辻の石塔群、地域の魅力的な店舗など、周辺の地域資源をめぐる散策ルートをつくります

祭典時の一体的利用

祭典時には、北側広場・市有地と一体となり多様な回遊動線が設定できます



通過交通の減少
沼津南一色線や三枚橋岡宮線等の開通によって、南北方向(駿河台方面や松沢町方面)や東西方向(三島富士線)の通過交通量は減少すると考えられます

南進線の右折規制
地域内道路の抜け道利用を防ぐため、南進線から東西市道への右折を禁止します

東西道路
速度抑制策として、センターラインのない相互通行とし、路肩の舗装材を古墳整備範囲内の舗装材と同様の仕上げとします

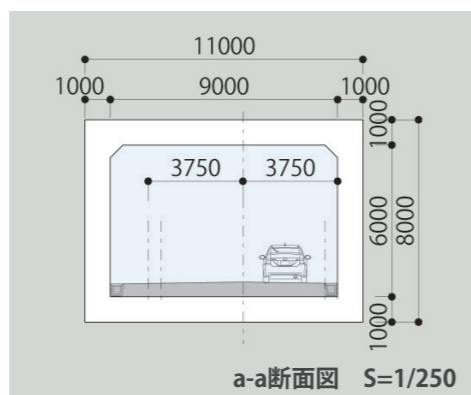
自転車動線
自転車は歩行者の交通安全性に配慮した迂回ルートを設定します

一次提案書

② トンネルデザイン

■古墳を毀損せず、エントランス広場も確保できるトンネル計画

- ・設計速度 60km/h の特例値を適用し、周溝部で 50cm 以上の土被りを確保する道路の縦断線形とします
- ・古墳の周溝の範囲外に立坑を設け、古墳の下は推進工法による非開削の函渠工、アプローチ区間は開削にて U 型擁壁を構築し、上部を蓋掛構造とします
- ・上記の計画により、古墳の復元に加え、南側にエントランス広場、北側に古墳広場を確保します



■古墳保存をより確実にするトンネル施工

- ・起点側道路用地にてプレキャストセグメントを製作し、発進立坑より R&C 工法による先行防護と長距離に適した ESA 工法の組み合わせにより部材を推進します
- ・推進工法は道路縦断の低い側から発進し、古墳下での精度を確保します
- ・プレキャスト部材とすることで摩擦力を軽減するとともに、部材厚を薄くして、古墳への影響を最小限に抑えます
- ・土被りの薄い周溝部は、あらかじめ、盛土を施し保護します

③ 橋梁デザイン

■古墳への影響を最小限に抑え、周辺のまちなみに溶け込む橋

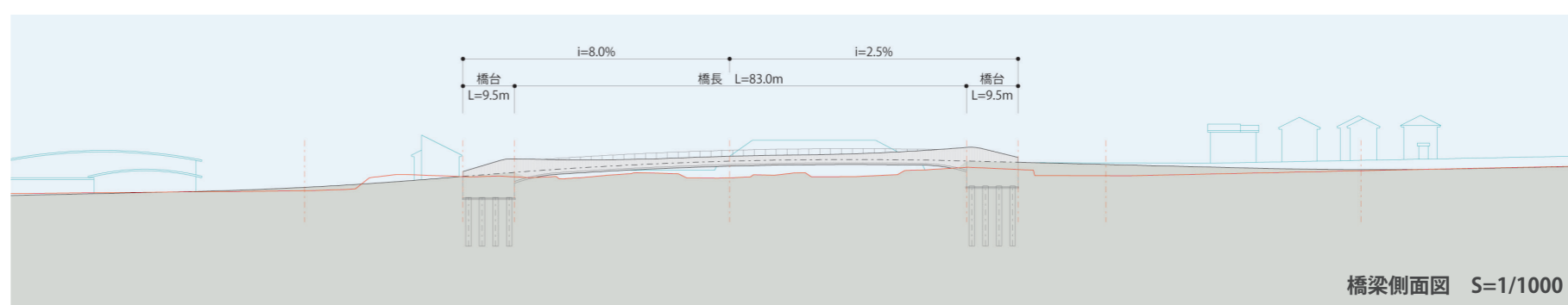
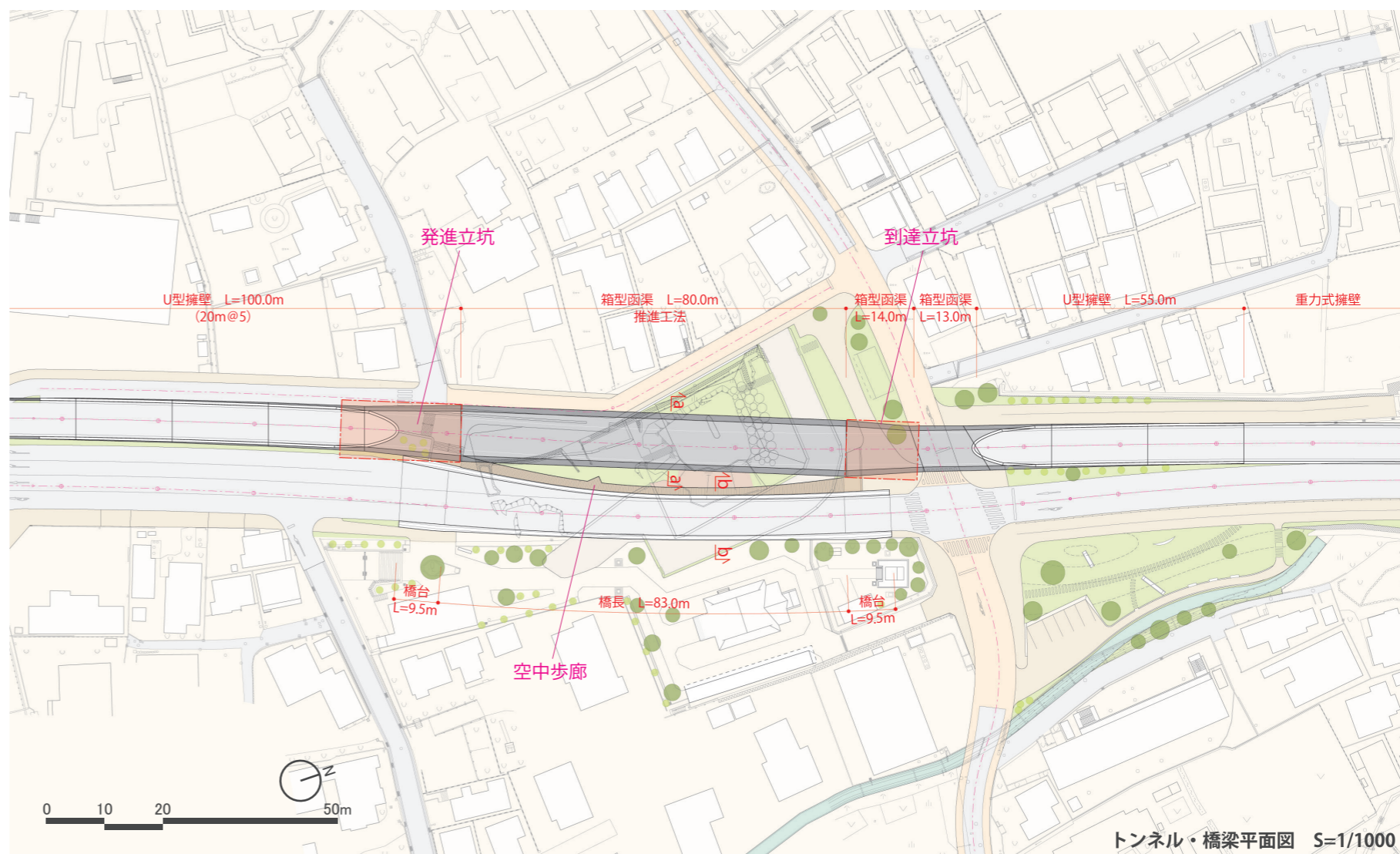
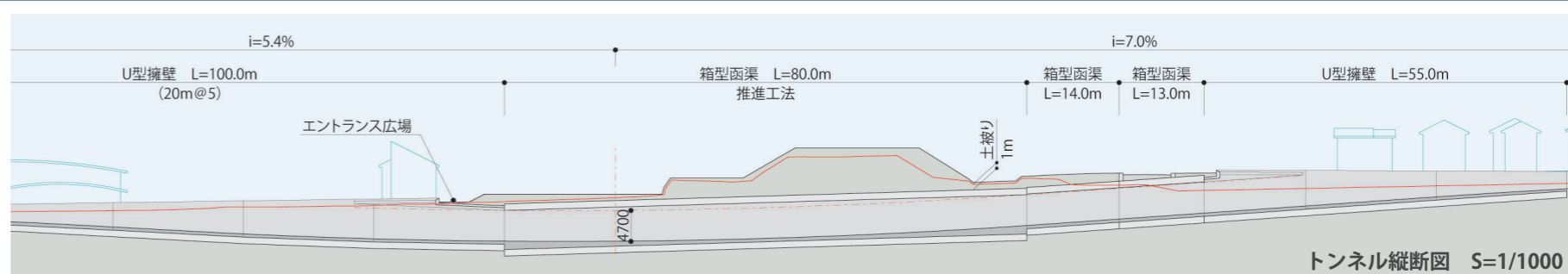
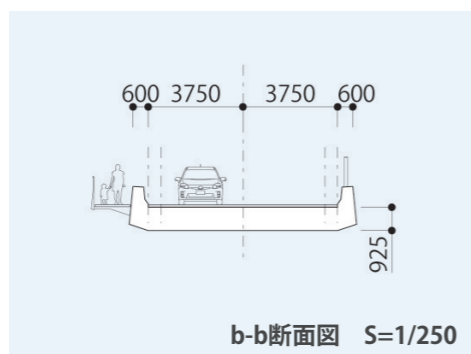
- ・周囲のまちなみに溶け込み、かつ古墳のある風景を引き立てるスケールの橋とします
- ・古墳区域に橋脚などの構造物を設けず、桁高をできるだけ低くできる構造とします
- ・古墳区域を一跨ぎでき、桁高を 1m 以下に抑えることができるフィン付き PC 立体ラーメン橋を採用します

■古墳区域に立ち入らない施工方法

- ・墳丘などの遺構面に触らずに施工できるよう、ラーメン橋台を起点とするプレキャストのセグメントによる張り出し施工を採用します

■ミニмумメンテナンスと高い耐久性を有する構造

- ・高強度のプレキャストコンクリートを用いることで、高い耐久性と低い桁高を実現します
- ・定期的な塗装や、地震時に破損しやすい支承や伸縮装置も不要となるコンクリートのラーメン構造にすることで、耐震性とミニмумメンテナンスを実現します
- ・コンクリート橋のため、揺れにくく車両走行による低周波振動音も低減できます



一次提案書

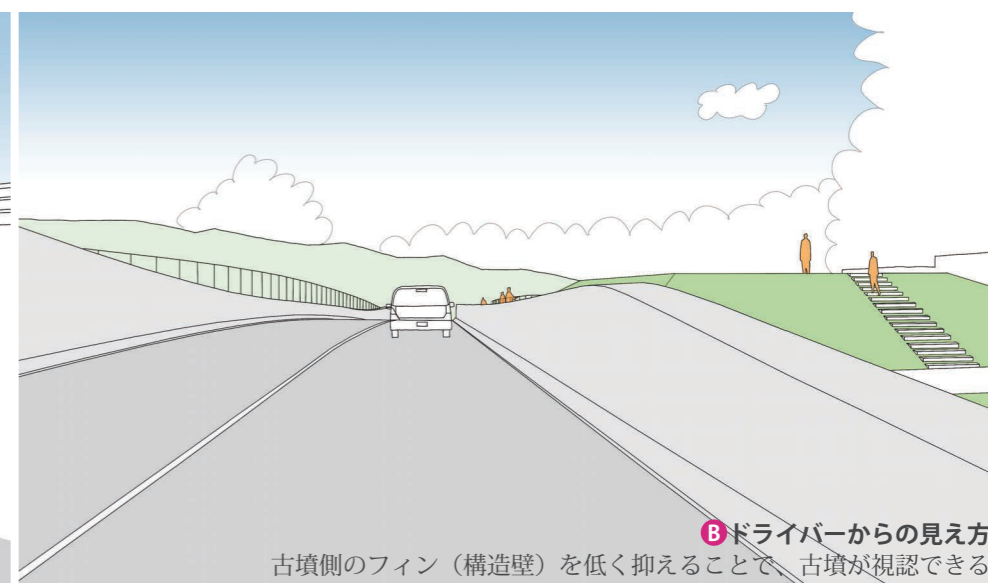
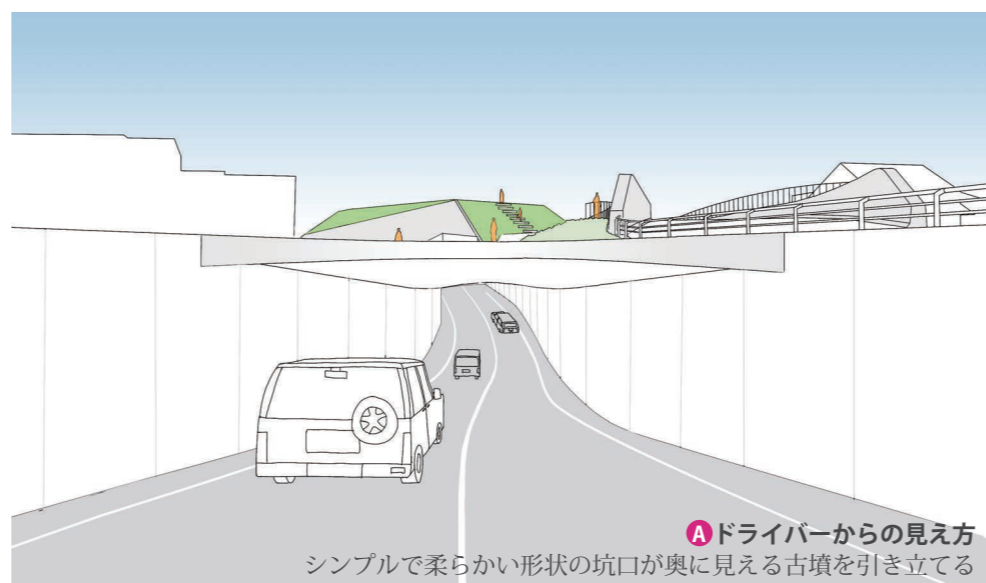
② トンネルデザイン

■ ドライバーに古墳を印象づける坑口デザイン

- 古墳がより印象的に見えるよう、山あて効果を生み出すシンプルなトンネル坑口デザインとします。
- トンネル進入時の圧迫感を軽減できるよう、入口付近の明暗差を小さくできる、U字型の坑口の平面形状とします
- 側道やエントランス広場からも柔らかな印象を演出します

■ 周辺の住環境を向上させる緑化デザイン

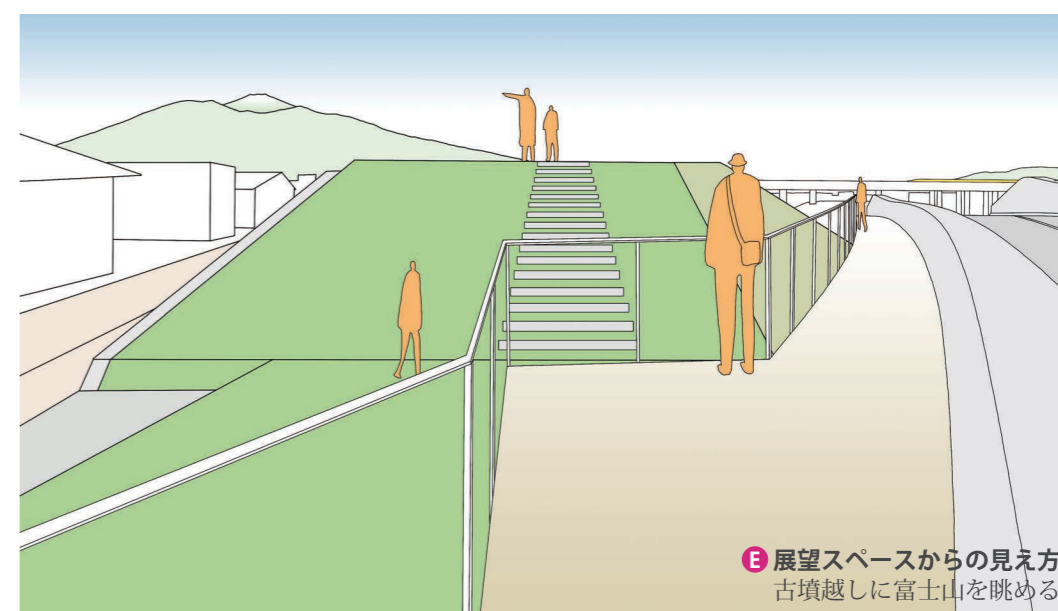
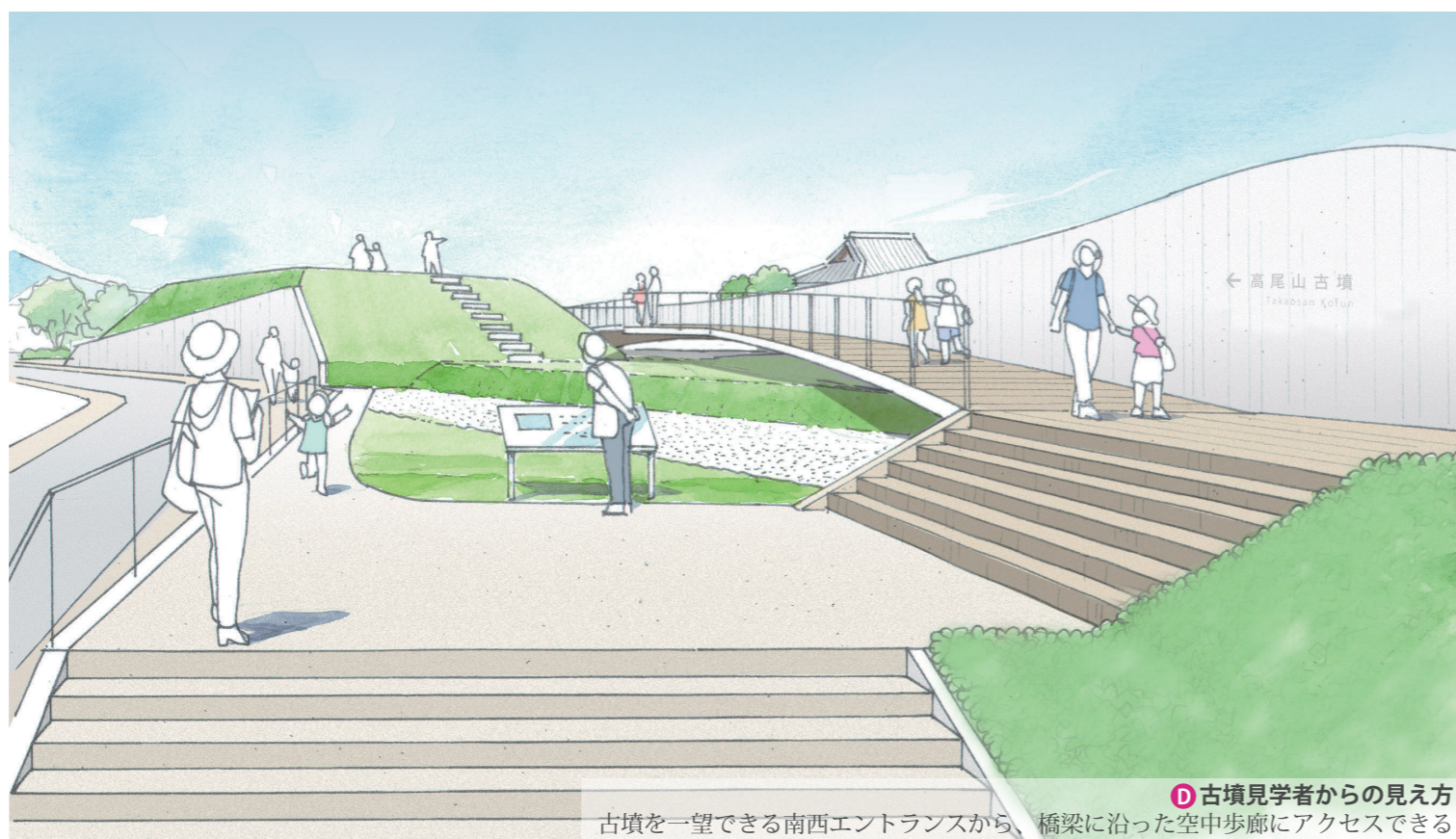
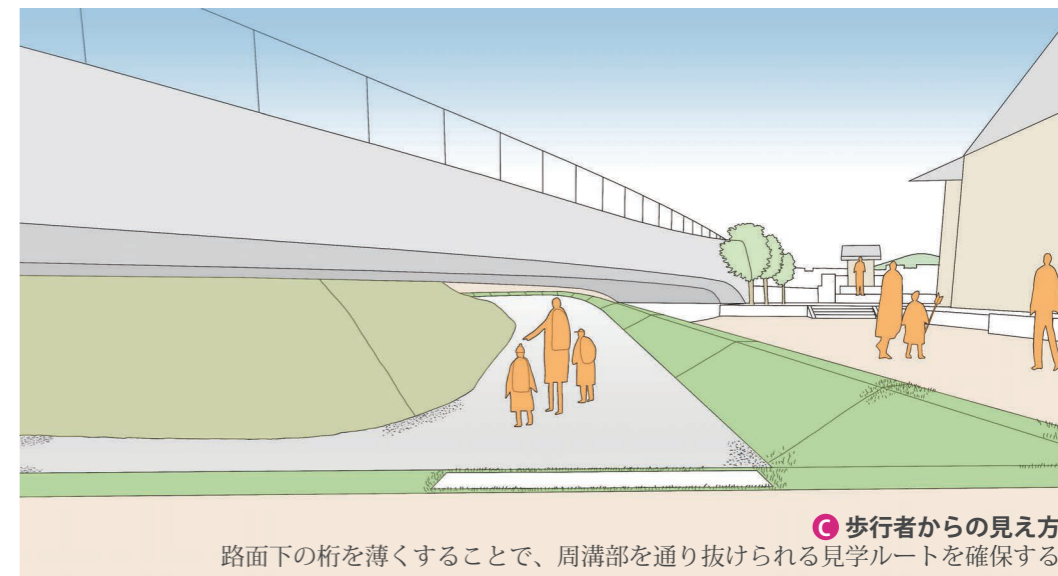
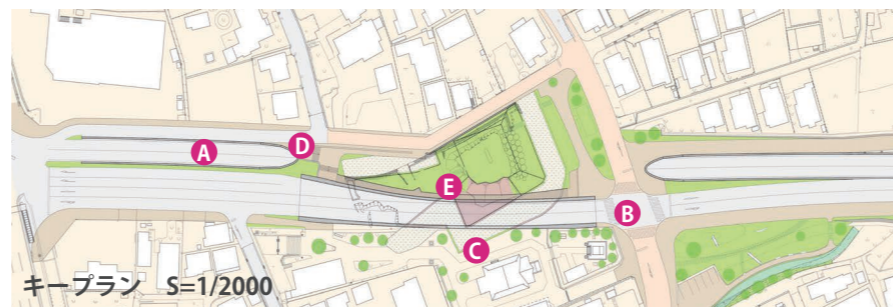
- 周辺の住宅地の魅力を高め、道路構造物の無機質な印象を和らげるよう、側道や歩道脇の空間を活用し積極的に緑化をおこないます



③ 橋梁デザイン

■ 古墳のある風景を演出し、回遊性を生み出す空中歩廊

- 富士山や愛鷹山、新幹線や祭りの屋台など、古墳が織りなす四季折々の風景を楽しむ空中歩廊を、橋梁本体に添架します
- 空中歩廊には、解説サインとともに前方部からの眺めを楽しめる展望スペースを設けます



一次提案書

④ 古墳の保存・復元について

■ 古墳区域内を毀損しない計画

- 道路線形の工夫、トンネルや橋梁の構造・施工方法の工夫により、古墳区域内を毀損しない計画を実現します（現時点で入手可能な資料による検証に基づく）

■ 前方後方墳の特徴を可視化する復元

- 完成当時の古墳の姿をイメージできるよう、墳丘後方部は、橋梁のある南東角以外の頂点を復元できる計画とします
- 周溝部は完成当時の姿になるよう掘り込むことで、完成当時の墳丘の高さや形状を体験できるようにします
- 周溝部の底面は砂利敷きとし、当時と同じように自然浸透による排水とします
- 復元ができないエリアでは史跡範囲を標示します

■ 西側部分の将来的な復元を視野に入れた整備

- トンネルや橋梁などの道路整備ステップを踏まえた、古墳の復元ステップにより、確実な復元を実現します
- すでに大きく欠損している西側部分は、市道や民有地にかかっているため現時点での復元は困難ですが、将来の完全復元に対応できるよう、既設ブロック積擁壁を撤去せず、市道側にコンクリート擁壁を設置して覆土保存をおこないます
- 古墳南西角は今回、周溝部の底面まで復元しており、将来の完全復元時には周溝部外側を盛り上げ周溝部の法肩を復元するだけの状態にします

⑤ 利活用について

■ 古墳の魅力を楽しみながら学べ、周辺の回遊性を創る古墳広場と空中歩廊

- 復元した墳丘形状を体験できる南西部のエントランス広場、東屋もありゆっくり古墳を眺められる古墳北側の古墳広場、地域の鎮守である熊野神社、緑豊かな市有地広場といった拠点に、古墳の魅力を味わい佇める場所をつくります
- それらの拠点をつなぐルートとして、四季折々の古墳が織りなす風景を楽しめる空中歩廊、橋の下をくぐり抜け墳丘の大きさを間近に体感できる周溝部のみち、墳丘頂部へのアクセスなどにより、さまざまな回遊行動を生み出します

■ 沼津の新たな文化的資産として、地域の誇りを醸成する活動への展開

- 明治資料館や近隣の学校とのコラボレーションにより、さまざまな学習活動や広報活動へと展開し、地域の誇りを醸成します

■ 古墳や谷戸川が日常の風景となる、緑豊かな市有地広場

- 谷戸川の改修も見据え、幹線道路の歩道から川までが一体的につながる緑豊かな広場空間とします。
- 古墳や谷戸の風景を楽しめる歩道、子どもたちの遊び場や古墳を眺め一休みできる芝生のスロープなどで、豊かな日常風景を演出します
- 古墳来訪者向けの駐車場は、地域のイベント時のバッファゾーンとしても利用できるようにします

